

別府大学大学院文学研究科・食物栄養科学研究科主催講演会 シンポジウム開催報告

本学大学院は、昨年度、一昨年度とコロナ禍に関する講演会・シンポジウムを実施したが、コロナ禍の状況が比較的落ち着いてきたこと、昨年、大分空港がアジア初となる「宇宙港」となることが決まったことなどから、今年度は宇宙をテーマにした講演会・シンポジウムを実施した。

大分空港がアジア初となる「宇宙港」となることで、県内外から多くの注目を集めている。経済的にもビジネス的にも大分県にとって大きなチャンスとなる可能性がある。そこで、本学大学院としても、「宇宙」や「星」をテーマとした講演会・シンポジウムを開催することによって、人々の関心を高め、「宇宙港＝大分県」のイメージの確立の一助となることを期待して実施した次第である。

概要は以下の通りである。

○テーマ「大宇宙と小宇宙―星と海と人と」

基調講演：「大分から宇宙へ～人と宇宙のつながりとは」

塚田 健 氏（平塚市博物館学芸員）

シンポジウム：

司会：田中 裕介（文学研究科長・教授）

パネリストの報告

浅野 則子（日本語・日本文学専攻 教授）「地上を映す空」

玉川 剛司（史学・文化財学科 准教授）「古代人と星―装飾古墳から―」

矢島 潤平（臨床心理学専攻 教授） 「宇宙とメンタルヘルス」

陶山 明子（食物栄養学専攻 教授） 「宇宙と食」

飯坂晃治教授の進行の下、田中裕介文学研究科長の開会の辞に始まり、友永植学長が開催の意義等について述べた（学長の都合によりビデオレターによる）。その後講演者である塚田健氏の紹介及び講演が行われた。

塚田健氏の講演は、日本初の宇宙港となる大分空港についての話題から始まり、さまざまな興味深いスライドでわかりやすく宇宙について解説したものであった。

休憩を挟んで行われたシンポジウムにおいては、まず4名の本学教員がそれぞれパネル報告を行い、その後、田中裕介文学研究科長の司会により、塚田氏とともに活発な意見交換が行われた。

シンポジウム後、樋園和仁食物栄養科学研究科長による閉会の辞があり、講演会・シンポジウムが終了した。

コロナ禍のため入念な感染防止対策を行った上で、一般の方々の来場も可能な開催となり、来場者は講師の塚田健氏の講演及びその後のシンポジウムを熱心に聴講した。

このように、本学大学院文学研究科・同大学院食物栄養科学研究科の両専攻に所属する専任教員による知の集合として、統一したテーマのもとにシンポジウムを開催できたことは大変有意義であったと思われる。来年度も本学大学院主催の講演会・シンポジウムを予定している。